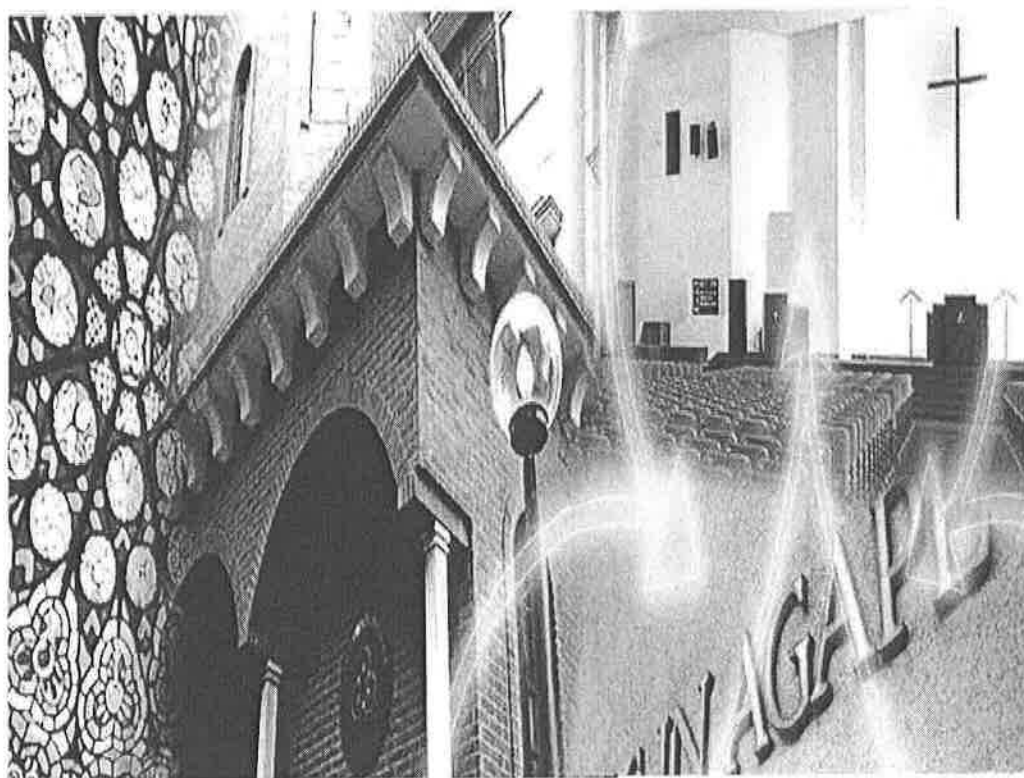


2013（平成25）年度

事業報告書



学校法人 松山東雲学園

目次

1. 法人の概要

(1) 建学の精神	1
(2) 学校法人の沿革	1
(3) 設置する学校・学部・学科等	2
(4) 学校・学部・学科の入学定員、学生数の状況	3
(5) 役員・評議員	5
(6) 教職員の人数	5

2. 事業の概要

(1) 主な事業及び金額	7
(2) 大学・短期大学	8
(3) 高等学校・中学校・附属幼稚園	2 2
(4) 耐震化事業等の概要	2 7
(5) 自己点検評価	2 7
(6) その他	2 8

3. 財務の概要

(1) 2013（平成25）年度決算概要	2 9
(2) 経年比較資料	3 5

4. 監事監査報告書

3 7

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

松山東雲学園の建学の精神は、「信仰・希望・愛」であらわされるキリスト教精神です。本学園はこの精神にもとづき、神を畏れ、神による希望に生き、神と隣人を愛する、自立した女性を育成する教育を目指します。

(2) 学校法人の沿革

1886 (明治 19) 年	松山第一基督教会の二宮邦次郎牧師により四国最初の女学校として松山女学校を設立 (9月16日)。
1906 (明治 39) 年	米国伝道局の管理に移されミッション・スクールとなる。
1920 (大正 9) 年	校舎を松山市大街道三丁目二番地二四 (旧赤十字病院跡、現高等学校) に移転。
1932 (昭和 7) 年	高等女学校令により校名を松山東雲高等女学校と改称。
1945 (昭和 20) 年	松山空襲、校舎焼失。キリスト教精神に基づく教育を明確にして再出発。
1947 (昭和 22) 年	松山東雲中学校を併設。
1948 (昭和 23) 年	松山東雲高等学校と改称。
1952 (昭和 27) 年	松山東雲カレッジを設立。
1957 (昭和 32) 年	松山東雲栄養学院を設立。
1964 (昭和 39) 年	カレッジ、栄養学院を発展的に解消し食物科の短期大学として発足。二宮源兵、初代松山東雲短期大学学長に就任。松山東雲短期大学の開学式を行う。
1966 (昭和 41) 年	松山東雲短期大学に家政科、保育科、英文科の3学科を新設。
1968 (昭和 43) 年	松山東雲短期大学に附属幼稚園を設立。
1976 (昭和 51) 年	松山東雲学園創立 90 周年記念式。 松山東雲高等学校創立 90 周年。 愛真館 (チャペル・図書館) 献堂式を行う。
1984 (昭和 59) 年	松山東雲短期大学に秘書科を新設。
1986 (昭和 61) 年	松山東雲学園創立 100 周年記念式。 松山東雲高等学校創立 100 周年。 100 周年記念館の献堂式を行う。
1987 (昭和 62) 年	食物科と家政科を統合・改組して生活科学科を新設。
1988 (昭和 63) 年	米国ボストンの伝統校ラセル大学と姉妹校提携を行い、短期体験留学による相互交流を開始。
1989 (平成元) 年	最新情報処理システムの導入をはじめとした教育研究設備を備え、シンボルタワーを配した校舎 D 館落成。
1991 (平成 3) 年	生涯学習時代に対応して、松山東雲学園オープンカレッジを開設。

- 1992（平成 4）年 松山東雲女子大学人文学部（人間文化学科・言語文化学科）を開学。
岡本道雄、初代松山東雲女子大学学長に就任。
- 1998（平成 10）年 松山東雲女子大学人文学部言語文化学科を国際文化学科に名称変更。
- 1999（平成 11）年 松山東雲女子大学人文学部に人間心理学科を新設。
- 1999（平成 11）年 松山東雲短期大学生活科学科生活環境専攻を生活デザイン専攻に名称変更。
- 1999（平成 11）年 松山東雲短期大学生活科学科生活文化専攻を生活文化学科へ学科昇格。
- 1999（平成 11）年 松山東雲短期大学英文科を募集停止。
- 2001（平成 13）年 オープンカレッジを発展的に解消し、松山東雲エクステンションセンターを開設。
- 2002（平成 14）年 松山東雲短期大学に専攻科福祉専攻を新設。
- 2004（平成 16）年 学生のキャリア形成支援の拠点としてキャリアサポートセンターを開設。
- 2007（平成 19）年 松山東雲女子大学人文学部を人文科学部とし、心理子ども学科・国際文化学科を新設。
- 2008（平成 20）年 松山東雲短期大学生活文化学科を「介護福祉士」養成に特化し、生活科学科介護福祉専攻として改編。
- 2009（平成 21）年 松山東雲短期大学専攻科福祉専攻を廃止。

（3）設置する学校・学部・学科等

- ① 松山東雲女子大学〔開学年月：1992（平成 4）年 4 月〕
人文科学部 心理子ども学科〔子ども専攻、心理福祉専攻〕
人文科学部 心理子ども学科〔心理専攻、子ども福祉専攻〕 国際文化学科
- ② 松山東雲短期大学〔開学年月：1964（昭和 39）年 4 月〕
保育科 秘書科 生活科学科〔食物栄養専攻、介護福祉専攻〕
- ③ 松山東雲高等学校〔開校年月：1948（昭和 23）年 4 月〕
全日制課程 普通科
- ④ 松山東雲中学校〔開校年月：1947（昭和 22）年 4 月〕
- ⑤ 松山東雲短期大学附属幼稚園〔開園年月：1968（昭和 43）年 4 月〕

(4) 学校・学部・学科の入学定員、学生数の状況 [2013(平成25)年5月1日現在]

①松山東雲女子大学 人文科学部 (単位:人)

学年	心理子ども学科				計	
	子ども専攻 [編入学定員:5]		心理福祉専攻 [編入学定員:5]			
	定員	現員	定員	現員	定員	現員
1年	50	49	60	41	110	90
2年	50	59	60	26	110	85
3年	55	71	65	39	120	110
4年	-	-	-	-	-	-
計	155	179	185	106	340	285

松山東雲女子大学 人文科学部 (単位:人)

学年	心理子ども学科				国際文化学科 [編入学定員:5]		計	
	心理専攻 [編入学定員:5]		子ども福祉専攻 [編入学定員:5]					
	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員
1年	-	-	-	-	-	-	-	-
2年	-	-	-	-	-	-	-	-
3年	-	-	-	-	-	-	-	-
4年	55	39	55	58	65	35	175	132
計	55	39	55	58	65	35	175	132

松山東雲女子大学 総計

定員	515	現員	417
----	-----	----	-----

②松山東雲短期大学 (単位:人)

学年	保育科		秘書科		生活科学科				計	
					食物栄養専攻		介護福祉専攻			
	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員
1年	100	108	70	86	80	84	40	16	290	294
2年	100	102	70	76	80	67	40	27	290	272
計	200	210	140	162	160	151	80	43	580	566

③松山東雲高等学校 (単位:人)

学年	普通科	
	募集人員	現員
1年	90	110
2年	90	93
3年	90	76
計	270	279

④松山東雲中学校 (単位:人)

学年	募集人員	現員
1年	50	26
2年	50	28
3年	50	25
計	150	79

⑤松山東雲短期大学附属幼稚園 (単位:人)

学年	学級数	現員
満3歳児	1	3
3歳児	2	59
4歳児	2	53
5歳児	2	59
収容定員 現員計	190	174

松山東雲学園 総計

定員	1,705	現員	1,515
----	-------	----	-------

(5) 役員・評議員[2013(平成25)年5月29日現在]

①役員

・理事【定数9人以上11人以内 現員11人】

山崎 文雄 (理事長)

棟方 信彦 阿部 正幸 大石 尊 森 日出樹 亀岡 篤
 山内 建 吉村真理子 上林順一郎 塩崎千枝子 平尾 由紀

・監事【定数2人 現員2人】

永井 鞆江 烏谷 紀興

②評議員【定数20人以上24人以内 現員23人】

山崎 文雄 棟方 信彦 阿部 正幸 大石 尊 曲田志保子
 森 日出樹 亀岡 篤 中島 昭 中村 治 篠崎 英代
 伊藤 浩美 中尾 祝子 一色 保子 松本 由美 高橋 恒美
 池田 智子 小野 幸代 上林順一郎 益 基 塩崎千枝子
 山内 建 吉村真理子 平尾 由紀

(6) 教職員の人数[2013(平成25)年5月1日現在]

① 専任教員

【松山東雲女子大学 人文科学部】

(単位:人)

	学 長	教 授	准教授	講 師	計
学長	1	-	-	-	1
心理子ども学科	-	10	4	7	21
国際文化学科	-	1	1	1	3
合 計	1	11	5	8	25

【松山東雲短期大学】

(単位:人)

		教 授	准教授	講 師	計
保 育 科		3	1	6	10
秘 書 科		7	0	0	7
生 活 科 学 科	食物栄養専攻	3	2	2	7
	介護福祉専攻	2	1	2	5
合 計		15	4	10	29

【松山東雲高等学校・松山東雲中学校】 (単位:人)

校長	教頭	教諭	計
1	2	10	13

【松山東雲短期大学附属幼稚園】 (単位:人)

園長	副園長	教諭	計
(兼務1)	(兼務1)	11	11

②専任職員 (単位:人)

所 属	専任職員・嘱託職員 (助手含む)
松山東雲女子大学・短期大学	43
松山東雲高等学校・中学校	3
松山東雲短期大学附属幼稚園	0
合 計	46

2. 事業の概要

(1) 主な事業及び金額

①教育環境ハード整備事業

老朽化著しい施設・設備について耐震対応等の環境整備・充実を目的とした事業。

【中高】 理事会における計画的な施設計画により大街道校地から対応。

- ・校舎耐震診断・補強実施設計業務〔金額：7,035 千円〕
- ・ピアス館内装改修工事〔金額：6,300 千円〕
- ・音楽館の解体工事〔金額：7,440 千円〕
- ・学寮の解体工事〔金額：14,063 千円〕
- ・正門屋根の改修工事〔金額：14,563 千円〕
- ・印刷機の購入〔金額：399 千円〕

【大短】

- ・B-3-2 教室の情報機器の更新〔金額：3,270 千円〕
- ・図書館閲覧室情報検索用PCの更新〔金額：976 千円〕
- ・D館・本館南トイレ改修工事〔金額：7,770 千円〕

【幼稚園】

- ・園舎耐震診断業務〔金額：788 千円〕
- ・備品整備〔金額：1,373 千円〕

②教育環境ソフト整備事業

魅力ある教育活動の実践を目指した各種検討組織の設置・運営を推進。

【学園】

- ・学園ホームページのリニューアル〔金額：2,625 千円〕
- ・学内LANシステムの更新〔金額：3,570 千円〕

【中高】

- ・全国大会等大会補助〔金額：2,442 千円〕

バレーボール、サッカー、アーチェリー部等の全国大会常連の部活動に対する運営負担軽減を目的とした補助。

【大短】

- ・VISION2020+プロジェクトの実施〔金額：3,483 千円〕

既存の組織の見直し等による学長のリーダーシップに基づく組織体制、運営体制の構築による新たな教育課程改革等の推進方法を模索する全学的プロジェクトの設置・運営。

- ・施設検討委員会の設置

理事会の審議に基づき、委嘱された。

【幼稚園】

- ・施設検討委員会の設置

理事会の審議に基づき、委嘱された。

③短期大学開学50周年プレイベントの開催〔金額：3,842千円〕【短】

次年度（2014年度）に開学50年を迎える短期大学の周年事業のキックオフ企画。

④学園バスの購入〔金額：8,157千円〕【学園】

利用頻度の増加する学園バスの安全性向上及びトランク空間拡充のための買い替え。

(2) 大学・短期大学

[1] 教育・研究

① 大学

◇現状の把握と課題について

2013年度の女子大学教務部としての基本方針は、従来通り「教育の質の保証」と「学士力の養成」とした。具体的には以下のとおり現状把握と課題分析を行い、2013年度を開始した。

- 1) 旧教育課程の学生（2010年度以前の入学生）への諸対応
- 2) 成績認定資料の提示方法の検討
- 3) 2015年度以降の教育課程にむけた教育内容・方法の改善の検討
 - ・ 単位制度の実質化（授業概要・シラバスの再検討・CAP制度の効果的運用）
 - ・ 評価制度の明確化と主体的学習の促進
 - 成績評価の適正化
 - GPA制度導入についての検討
 - ・ 進級制度の再検討（必修科目の履修年次、履修単位数の幅などを含む）
 - ・ 卒業認定方法の再検討（教育効果の測定も含む）
- 4) 短期大学教務部と協力し、より効率的な教務システムの検討を開始する
 - ・ 学生情報の一元化を目的とし、本学に導入可能な教務システム
 - ・ 短大教養科目と大学基盤科目について、大学での基礎教育とした構成の検討
 - ・ 大学教育レベルの維持、教育力の向上のために、リメディアル教育の検討

◇達成状況について

現場の問題点の拾い上げと確認を行い、2年目以降の改革実践に備えた。

- 1) 旧教育課程の学生が無事に卒業できるように、学科会と連携して対応を行った。
- 2) 成績認定資料で、成績評価（秀・優・良・可）の割合を従来は学年別・学科専攻別に割合を出していたが、GPA制度導入と併せて、今後さらに検討を続ける。
- 3) 授業時間数については16週の開講コマ確保と運用方法について周知を行った。
また、授業概要・シラバスの再検討については、カリキュラム・ポリシー等の項目、授業の事前学習・事後学習、参考書についての項目を追加し、履修学生への便宜を図った。
- 4) 短期大学教務部との合同教務部会で、桑原キャンパスでの教育実践において、共通に検討できる項目について検討を開始し、必要に応じて改善を行った。
- 5) 次の事項については今後も継続して検討していくことになった。
 - ・ 進級制度の再検討、卒業認定方法の再検討
 - ・ 教務システムの改善
 - ・ 卒業認定方法の再検討

◇2013年度卒業生数について

前学期卒業生数は心理子ども学科子ども福祉専攻3名、後学期卒業生数は心理子ども学科心理専攻37名、心理子ども学科子ども福祉専攻51名、国際文化学科33名の計121名である。

◇2014年度に向けての課題について

教育の質の向上のために現時点で可能な教学改革を実行する必要がある。教員数のダウンサイズに伴う教育課程や教員の業務負担のダウンサイズも必要である。

教学改革を積極的に行い、教員業務の効率化を図り、教育・研究の時間の余裕を確保し、大学の教育力を向上しなければならない。

- 1) CAP 制度の効果的運用(継続検討)
- 2) 成績評価の適正化
- 3) GPA 制度導入
- 4) 進級制度の再検討、卒業認定方法の再検討
- 5) 教務システムの改善および運用
- 6) 短大教養科目と大学基盤科目について、大学での基礎教育とした構成の検討
- 7) 卒業認定方法の再検討

②短期大学

◇現状の把握と課題について

教務部の業務としては、教育課程、授業時間割、授業概要、学籍異動、保護者懇談会、入学前情報発信などがあげられ、従来はこれらの業務を各学科・専攻、関連部署と連携しながら、ミスなく執行していくことが求められていた。しかしながら近年の厳しい大学経営の時代を迎え、本学の教育内容も社会のニーズにあわせ、かつ本学の特徴を出したものに改革して行くことが求められる。このような意識をもって、以下の目標を設定し大学教務部と合同で取り組む。

1) 学生情報の一元化

現在、教務部、入試部、学生支援部、キャリア支援部等でそれぞれ学生情報を収集し、管理しているが、横の連携に問題がある。そこで学生情報を一元化できるシステムを構築し、学生情報を学生指導・学生支援に活かせるシステムを構築する。

2) 教養科目・基盤科目の見直し

教養・学部共通教育研究会が廃止されたため、この業務は教務部の担当となった。教養科目・基盤科目も、現在大学生として身につけさせなければならない教養とは、また大学卒業後社会人として身につけておかなければならない教養とはという視点で、見直す必要がある。

3) リメディアル教育の構築

リメディアル教育に関しては、Vision 2020+の特色ある教育方法グループから提案があると思われる、それを受けて具体的に検討する。短大では駿台教育研究所に委託し、入学予定者に対し国語の理解力テストを実施している。しかしながらこのテストでは入学予定者の学力の現状把握はできるが、その問題点を改善するプログラムが入学後の教育課程に設けられていない。

◇達成状況について

1)～3)の目標項目に関しては、Vision 2020+の答申を受けて実施する考えであったため、目標を達成した項目はなく、全て継続検討中である。しかしながら、それ以外では、2013年度に実施された文部科学省の「私立大学等改革総合支援事業」に対応する施策として以下の項目を実施した。

- ・授業概要における「カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーに関わる項目」、「参考書（購入する必要はないが推奨する図書）」、「授業時間外学習にかかわる情報（事前学習・事後学習）」の項目を追加
- ・各学科・専攻における授業概要内容の適性のチェック
- ・授業時間数の16週の確保と運用方法（試験を実施する場合の取り扱い）の周知

◇2013年度卒業生数について

前学期卒業生数は秘書科1名、生活科学科食物栄養専攻1名 計2名、後学期卒業生数は保育科96名、秘書科69名、生活科学科食物栄養専攻62名、生活科学科介護福祉専攻26名 計253名である。

◇2014年度に向けての課題について

- 1) 学生情報の一元化
- 2) 教養科目・基盤科目の見直し
- 3) リメディアル教育の構築
- 4) 学修ポートフォリオの導入
- 5) GPA制度の導入
- 6) 学長をリーダーとする全学的な教育マネジメント体制の確立

[2] 学生支援

① 学生の心身のサポート

本学は、学生の心身のサポートとして、保健室とカウンセリングルームを設置している。

保健室は、以下のサポートを行っている。

- ・定期健康診断を実施し、結果を個人通知し未健診・再検査者には受診用紙を同封している。
- ・季節ごとの流行している病気に関する情報を周知する。
- ・助産師さんのからだの相談（年4回）、婦人科医師の相談（年2回）

カウンセリングルームは、以下のサポートを行っている。

- ・「心身の健康カード」
- ・「校医による心の相談日」（年6回）
- ・本学の教員や臨床心理士による「個別相談」

② 学生会活動

学生会活動とは、本学学生の自治的・組織的な諸活動をいいます。各種行事・クラブ活動などをはじめとし、学生生活全般を充実した有意義なものにするため、学生自らが組織し取り組む活動です。本学学生はすべて学生会の構成員で、そのことにより様々な権利を有します。学生会主催の行事としては、ウェルカムセミナー（4月）、清涼祭（7月）、学生総会、大学祭（11月）、卒業記念パーティー（3月）などがあります。

③クラブ活動

一人でも多くの学生が正課外活動に参加し、それぞれの志向性に合った技術・知識を高めるとともに友情を培い、充実した学生生活を送ることを目標としている。文化クラブは、清涼祭や大学祭、オープンキャンパス等の学内イベントでパフォーマンスを通して、普段の活動成果を発表している。

体育クラブは、四国インカレをはじめ、諸大会で練習成果を挙げている。諸活動で成果を上げた学生に対して、学生表彰制度を設けている。活動しているクラブは、以下の通りである。

- ・文化クラブ：すういんぐがーるず（吹奏楽）、草月（華道）、着装、書道がーるず、茶道などの18クラブ
- ・体育クラブ：バレーボール、ソフトテニス、柔道、バスケットボール、バドミントンなどの9クラブ
- ・同好会：剣道、しのめパルーンアート、しのめ放送などの8同好会
- ・その他正課外活動：生協学生委員会、国際交流フレンドシップ（留学生との交流活動）



[3]キャリア支援

①就職支援事業

2013年度求人件数は前年比増加したものの、厳選採用が続く学生の就職環境は以前厳しいものがあっても関わらず、就職率は大学96.1%、短期大学96.9%とそれぞれ5年連続で96%以上を確保することができた。その要因として本学の特長である「顔が見える指導」個別指導を徹底したことが挙げられる。

②科別専攻別就職状況

科別専攻別で見た場合、大学では「子ども福祉専攻」が昨年に引き続き就職率100%を達成することができた。一方、短期大学では「介護福祉専攻」が7年連続で100%を達成、その他「保育科」「秘書科」も98%以上を確保するなど、本学独自の就職関係セミナー等の効果が表れた。

③学内ガイダンス・セミナー等の開催

A. 大学

入学直後から始まるキャリアプログラムに加え、3年次4月から4年次後期まで続く「就職ガイダンス」を中心に、基盤科目の「学びの基礎」に始まり、さまざまな支援プログラムを用意している。また、教学面では「キャリア論」「ビジネスコミュニケーション」「くらしの経済学」等の講義を1,2年次から開設し、早い時期からキャリアについて考える機会を提供している。

B. 短期大学

1年次10月から7回の「就職ガイダンス」を実施している。内容は「自己分析の進め方」「効果的な情報収集」「就職活動の進め方」「履歴書の書き方」「面接を受けるときの注意点」など多岐にわたっている。できるだけ早い時期に職業観・就職観を確立して就職活動ができるよう支援している。

④求人・就職情報収集および企業見学会

およそ400先の企業訪問や企業見学会等を通じて、会社の特長や就職情報の収集などにより学生とのマッチングを図っている。

⑤インターンシップ研修

学生が在学中に就業体験を行うことを通じて、就業意識の形成や将来のキャリアアップなどを実現した。また、「大学ではできないこと」を経験することで「大学でしかできないこと」を再認識し、将来に向けた学業についての意欲を高めることなどを図ってきた。

⑥学外機関との連携

ハローワークなどとの関係を強化し、未内定者の就職活動支援のため、学内において相談会を毎月実施した。

大学就職率推移表 (%)

	2008. 5. 1	2009. 5. 1	2010. 5. 1	2011. 5. 1	2012. 5. 1	2013. 5. 1	2014. 5. 1
大学	97.5	95.3	97.0	97.1	96.5	97.6	96.1
全国	97.3	95.4	91.5	90.9	92.6	94.7	95.2

大学・2013年度業種別就職先一覧

進路決定業種名		進路決定企業名
製造業	食料品・飲料・たばこ・飼料	サンタ
	その他の製造業	上海福助工業
情報通信業		もしもしホットライン・東和ハイシステム・マイタウン今治新聞社
運輸業・郵便業		全日本空輸・ANA エアサービス松山
商業	卸売業	アイワク産業・三陽物産
	小売業	明屋書店・キャン、フジカワ、モバイルコム・レデイ薬局、ティーズファクトリー・西日本セイムス・サマンサタバサグループ。彩生薬局・三陽商会・愛媛企画
金融業	銀行業	伊予銀行・愛媛銀行
	その他金融業	愛媛信用金庫・宇和島信用金庫
	保険業	富士火災海上保険

不動産業・物品賃貸業		住宅情報館・いよぎんリース
その他の専門・技術サービス		ジャステム西広・スタジオアリス
宿泊業・飲食サービス業・		松山全日空ホテル・四国道後館・時の名所(ふなや)
生活関連サービス業・娯楽業		ベルモニー平安閣グループ・ベネフィット・ワン・モバイルフ ィット・はと観光・名鉄観光サービス
教育・学 習支援業	学校	上島町立岩城中学校(英語教諭・臨時)
	公立幼稚園	松前町職員・小城市職員・奈義町職員(契約)
	幼稚園	松山幼稚園・湘南やまゆり学園・松山東雲短期大学附属幼稚 園・北条幼稚園・道後聖母幼稚園・花園幼稚園・勝山幼稚園・ 大護幼稚園
医療・福 祉	医療業・保険衛生	すみ整形外科リハビリ科・佑心会・済生会松山病院・宮本歯科・ 梶浦病院・松山心臓血管病センター・関谷循環器科
	公立保育所	伊予市職員・松山市職員・松山市職員(臨時)
	保育所	長与きらら保育園・松山中央乳児保育園・久万保育園・ NIKONIKO 館・HappyHouse・さくら学園保育園・こどもの 森・さくら幼児園・はちす保育園・ あい保育園・ひかり保育園・マミーズファミリー・愛光保育園・ 桑原保育園(小学館集英社プロダクション)・未来保育園・大隅 保育園・かさぎ保育園・法龍寺保育園・ミドリ保育園・潮見保 育園
	児童福祉事業	松山乳児院・菊愛会(在宅支援センター輝なっせ)
	老人福祉・介護事業	ふじ・ノリテック
	障害者福祉事業	就労サポートセンターかみまち
	身体障害福祉施設	愛媛県社会福祉事業団
	知的障害福祉施設	新居浜愛育会指定障害者支援施設まさき育成園・宗友福祉会 (みどり園)
	精神障害福祉施設	南風会(ハートピアみなみ・さとわ)
その他の社会保険・ 介護事業	新居浜社会福祉事業協会	
複合サー ビス	協同組合	今治立花農業協同組合
その他のサービス業		愛媛県浄化槽協会
公務	市	松山市職員(臨時)
	町	愛南町(臨時)・松前町職員(臨時)

短期大学就職率推移表 (%)

	2008. 5. 1	2009. 5. 1	2010. 5. 1	2011. 5. 1	2012. 5. 1	2013. 5. 1	2014. 5. 1
短大	98.6	98.0	98.7	96.6	96.7	99.1	96.9
全国	94.6	94.5	88.4	84.1	89.5	94.7	94.2

短期大学・2013年度業種別就職先一覧

進路決定業種名		進路決定企業名
建設業		インテリアにしおか
製造業	食料品・飲料・たばこ・飼料	愛麺・ルナ物産
	鉄鋼業・非鉄金属・金属製品	東矢工業
	電子部品・デバイス・電子回路	東予産業
	その他の製造業	フクヨー愛媛
情報通信業		国際コンピューター・坂本電子計算センター・ウォンズ
運輸業・郵便業		瀬戸内しまなみリーディング
商業	卸売業	三和鋼管・新光ビニール・ビギ
	小売業	オンワード樺山・ハッピーファーマシー・ネッツトヨタ愛媛・ネッツトヨタ瀬戸内・三共生興ファッションサービス・ゼビオ・メディケイト・伊予産業・モバイルコム・クロスカンパニー・ワールドストアパートナーズ・松山三越・キャサリン・ヨウジヤマモトグループ・菜菜フーズ・伊予鉄高島屋・La Branshe(ラブランシェ)・イオンリテール
金融業	銀行業	伊予銀行
	貸金業	いよてつカードサービス
	証券業・商品先物取引業	二浪証券
	その他の金融業	愛媛信用金庫
	保険業	富士火災海上保険・保険サービスライフコア
不動産業・物品賃貸業		NYホーム・ニッポンレンタカー四国
宿泊業・飲食サービス業		KIZUNA グループ・大和屋本店旅館・マーチャンドバンカーズ・ゼロ・笹錦食産
生活関連サービス業・娯楽業		宇部72カントリークラブ
教育・学習支援業	学校	大洲市立長浜中学(栄養教諭・臨時)
	公立幼稚園	丸亀市職員・西条市職員(臨時)・四国中央市職員(臨時)
	幼稚園	愛媛幼稚園・東松山幼稚園・東松山保育園・北梅本幼稚園・三葉幼稚園・唐子幼稚園・菊本幼稚園・めぐみ幼稚園・たんぽぽ幼稚園・木の実幼稚園・若葉幼稚園・三瓶幼稚園・大護幼稚園・中村幼稚園・石手幼稚園・みどり幼稚園・大町幼稚園・和気幼稚園・大山寺幼稚園・みのり幼稚園・久米幼稚園・松山東雲短期大学付属幼稚園・潮見幼稚園・久枝幼稚園・番町幼稚園・桃山幼稚園(幼稚園教諭・栄養士)

医療・ 福祉	医療業・保健衛生	浦岡胃腸クリニック・有津むらかみクリニック・小田ひ尿器科(栄養士)・松山リハビリテーション病院・おかだ整形外科・聖愛会・増田病院・愛媛県立病院・フォレスト歯科クリニック
	公立保育所	松山市職員・新居浜市職員・鬼北町職員・伊方町職員・伊方町職員(臨時)・愛南町職員(臨時)・広島市職員(臨時)・今治市職員(臨時)・西条市職員(臨時)・大洲市職員(臨時)・東温市職員(臨時)・内子町職員(臨時)・八幡浜市職員(臨時)
	保育所	和泉保育園・星岡保育園・浮穴保育園・道後保育園・北条愛児園(栄養士)・富士保育園・富久保育園(保育士・栄養士)・潮見保育園・中萩保育園・大町保育園・生石保育園・平井保育園・のぞみ保育園・五郎保育園・古川保育園・小百合保育園(ニチイ学館・栄養士)・ルンビニ乳児保育園・めぐみ保育園・ミドリ保育園・さくら幼稚園・コイノニア保育園・夜間保育所ふくろうの家・あさひ保育園・ウィルビバンビーノ・保育所ちびっこランド・ジャックと豆の木園・マミーズファミリー・ほくしんコール(ジェイコム)・エイジンジウエル・みつばち地域保育所ぴよぴよ
	児童福祉事業	松山信望愛の家(保育士・栄養士)・宇和島地区広域事務組合(近永乳児院・保育士)
	老人福祉・介護事業	特別養護老人ホーム神南荘・平成会・砥部寿会・梅本の里・せんの里ねんりん・幸富久荘・慈光会(ていれぎ荘)・亀天会・愛隣園・済生会松山老人保健施設にぎたつ苑・ベルワイド・スローライフ・里久会・順風会・尚温会
	障害者福祉事業	福角会
	知的障害福祉施設	宗友福祉会
	その他の社会保険・ 介護事業	新居浜社会福祉事業協会(保育士)・西予総合福祉会(保育士)・今治福祉事務所
	複合サー ビス	協同組合
その他のサービス業		日清医療食品・クロスサービス・愛媛総合警備保障・シダックスグループ・エームサービス西日本・メフォス・日米クック四国営業所・シンセイフードサービス・NTT マーケティングアクト
公務	市	大洲市保健センター(栄養士・臨時)

[4] 図書・学術情報

①図書館利用促進

○ガイダンス

4月～5月にかけて大学・短大の全てのゼミ学生に対し新入生オリエンテーションを実施、

6月からは適宜、文献検索ガイダンスを実施し図書館利用を通じて学生への学修支援を図っている。

○学生希望図書購入制度

新入生オリエンテーションや読書相談等を利用し、図書購入希望制度の案内促進を図っている。

○企画展示

何よりも充実した学生生活が送れるように新入生を迎える春には「学生生活応援図書」、学期の中旬には試験・レポート提出を想定して「レポート・論文の書き方関連図書」、夏には「前年度貸出・閲覧ランキング上位の本」、秋には「文学賞・話題賞を受賞した本」、冬には「クリスマス関連図書」、年度末には「人間力UPの本」の展示を行っている。

また、附属幼稚園とのコラボ企画として「季節のおすすめ絵本」（年4回・クリスマス）の展示を行っている。

○ベストリーダー表彰

年間の図書館資料多読者を選出し、ベストリーダーとして表彰を行っている。

②学術雑誌

毎年、各学科・専攻において購読学術雑誌の見直選定を行っている。

③愛媛地区共同リポジトリ「IYOKAN」

2011年度から愛媛地区大学図書館協議会参加校において連携している愛媛地区共同リポジトリ「IYOKAN」に、本学の紀要・研究論集等を公開している。

[5]情報化

①学術情報ネットワーク（SINET4）

本学のインターネット接続回線は、従来愛媛大学ノードとしてSINET4に接続していたが、SINET4の運用終了に合わせてデータセンターへの移行が必要になったため、8月に移行を行った。

②情報システム基盤整備

機器が老朽化しトラブルが多発していたこと、および、モバイル機器の普及により運用上の弊害が目立つようになったため、プロキシサーバの運用を停止し直接インターネットにアクセスできるようにした。

2007年度より運用してきた学内LANシステムが6年間のリース満了を迎えたため、9月に機器更新を行った。この機器更新により不正DHCPサーバ（無線LANルータ等）の接続によるネットワークトラブルが解消した。

学生用メールアドレスを教職員用メールアドレスから分離した。

③教育設備

D-5-2, D-5-3 教室において、生活科学科食物栄養専攻の授業で使用している「エクセル栄

養君」のバージョンアップを行った。このバージョンアップにより、Microsoft Office のバージョンを 2010 に一本化することができた。

④講習会

スマートフォン等の携帯端末からのメール利用について講習会を行った。

⑤学園ホームページ

学園ホームページのリニューアルを完了し、4 月から運用を開始した。スマートフォンへの対応が強化された。

⑥Windows XP サポート終了への対応

本-3-7 教室の整備を行い、Windows XP から Windows Vista 以降の OS への移行を完了した。

図書館の閲覧室に設置している蔵書検索用 PC を Windows XP から Windows 7 に移行した。

事務局用 PC の整備を行い、職員が通常利用する PC について Windows 7 以降の OS への移行を完了した。

[6]社会連携・地域貢献

①松山東雲エクステンションセンター

松山東雲エクステンションセンター（SEC）は、松山東雲女子大学・松山東雲短期大学の持つ教育・研究機能を広く地域社会に開放し、教育サービスを提供することを目的とした生涯学習支援機関である。ここでは託児サービスを行っており、小さなお子様を子育て中のお母様でも安心して学べる環境を整備している。

○公開授業

18 歳以上の女性を対象にして、松山東雲女子大学・松山東雲短期大学の正規授業を開放している。

○社会人講座

18 歳以上の男女を対象に「資格取得支援、語学、パソコンスキル、暮らし創造、趣味・芸術」の分野に分けて、昼間に限らず夜間も開講し、年齢・性別を問わず受講しやすい環境づくりに努めている。

②社会連携

○連携包括協定

中予の課題解決や地域活性化を目的とし、愛媛県と連携包括協定を締結した。

○産官学連携

愛媛県中予保健所と連携し、松山東雲女子大学・松山東雲短期大学、国立大学法人愛媛大学、愛媛県立医療技術大学、松山大学、聖カタリナ大学の学生が若者の健康維持増進を図ることを目的とした事業「若者の食サポーター育成事業」を実施した。

③地域貢献

○桑原小学校

桑原小学校の総合的な学習において、福祉や介護に関することやバリアフリーなどに関する内容の見学・調査を行うため来学し、松山東雲短期大学生活科学科介護福祉専攻の助手や保健室の看護師・保健士の指導のもと、介護実習室の見学や実際に車いすの体験等を行った。

○桑原中学校

桑原中学校の校外学習において、本学の教育方針や目的、地域との関わりなどについての調査に来学し、松山東雲短期大学の亀岡学長補佐が生徒からのインタビューに応え、建学の精神などを分かりやすく説明した。

2013 (H25) 年に 30 周年を迎える桑原中学校では、生徒が記念キャラクターを作成、その中から代表作品を約 30 枚選出し、桑原中学校と松山東雲女子大学・松山東雲短期大学の美術・芸術関係教員等が連携・協力して審査会を実施し、最終的に本学教員がデザイン画像として仕上げ、桑原中学校へ提供した。

○松山市

松山市（市民部市民相談課）が主催する『みんなの生活展』の親子体験コーナーへ「しなのめパルーンアート同好会」、「東雲VYSクラブ」が参加した。

松山市の助成事業に本学（松山東雲短期大学生活科学科介護福祉専攻）と桑原地区まちづくり協議会：保健福祉部が連携し『大学との連携による地域の福祉力を高める事業』として地域の福祉力向上に努めている。

[7]入試

①入学者選抜説明会

例年どおり愛媛県内は、松山[32名]、新居浜[4名]、今治[5名]、宇和島[10名]の4会場。県外は、高知[7名]、四万十[5名]、那覇[7名]、名護[1名]の4会場で開催した。

②進学相談会、訪問入試相談会

さんぽう、日本ドリコム、栄美通信、ヒューマンステージ、ライセンスアカデミー、昭栄広報、JSコーポレーション、キッズコーポレーション、エフオール、リクルート等の業者媒体を介して例年どおり行った。新規参入した愛媛新聞社主催の進学相談会の提案があり参加したが、予想外の結果に終わった。

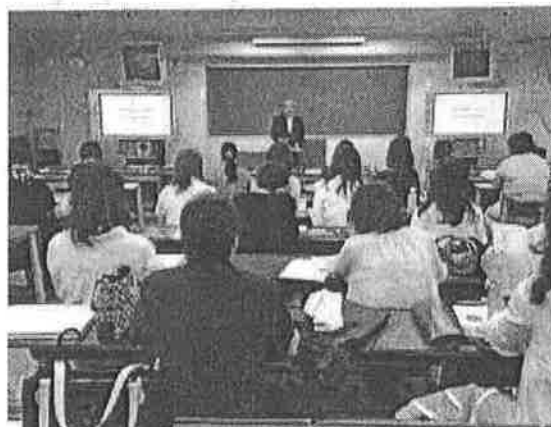
③学校見学会・出張講義

学校見学会：7校

[東雲・東温（介護のみ）・済美・
新居浜南・北条・川之石・北宇和]
※東雲はPTA見学会もあり。

出張講義：8校 28講義

[東雲、済美、松山北、松山中央、
松山城南、上浮穴、北条、宇和島南]



④高校訪問

愛媛県内を中心に4月～9月前半にかけて訪問。また、12月、1月にも一般入試出願を狙って訪問。県外については高知、徳島、香川、大分、広島、山口、沖縄。

⑤オープンキャンパス

例年どおり、6月を皮切りに7月、8月、9月を中心に開催。その他、大学祭、クリスマスにあわせてプチオープンキャンパスを開催。3月には1,2年生対象のオープンキャンパスを開催。参加者数は以下のとおり。

《女子大学》

	子ども 専攻	心理福祉 専攻	合 計	昨 年
6月8日	7	7	14	15
7月7日	18	9	27	22
8月3日	24	20	44	67
9月21日	12	19	31	22
3月21日	7	13	20	17
合 計	68	68	136	143

《短期大学》

	保育科	現代ビジネス 学科	食物栄養 専攻	介護福祉 専攻	合 計	昨 年
6月8日	79	25	38	16	158	131
7月7日	78	26	31	7	142	95
8月3日	97	36	46	14	193	166
9月21日	69	37	48	8	162	73
3月21日	51	19	35	6	111	117
合 計	374	143	198	51	766	582

⑥2014年度入試の主な変更点【短期大学】

- ・秘書科の名称変更により「現代ビジネス学科」1期生の募集活動開始。
- ・短期大学の推薦入試（専願推薦・公募推薦）選考方法において適性検査から小論文（50分）へと変更した。合否判定についても、学科・専攻独自の配点により判定することとし、学科・専攻の特色を活かしたものとなった。
- ・生活科学科食物栄養専攻においては、AO入試を導入。
- ・奨学金制度では、生活科学科介護福祉専攻社会人募集において「しのめ介護社会人特別奨学生」制度を導入。
- ・特別選抜[社会人（松山高等技術専門校からの委託生）]の入試日程を社会人入試Ⅴ期からⅣ期に変更。

⑦2014 年度入試の概要

【松山東雲女子大学】

選考方法		人文科学部	
		心理子ども学科	
		子ども専攻	心理福祉専攻
指定校推薦入試		面接、出願書類	
公募推薦入試	I 期	小論文 (60 分)、面接、出願書類 (出願資格: 評定平均値 3.0 以上)	
	II 期		
スポーツ推薦入試	I 期	面接、出願書類	
	II 期		
生徒会活動推薦入試			
一般入試	A 日程	○国語 (60 分) } 2 科目必須 ○英語 (60 分) } ※2 科目の合計得点で判定	
	B 日程		
大学入試センター試験 利用入試	A 日程	志望者が受験している大学入試センター試験の科目のうち、①②の 2 科目の得点と提出書類との総合評価で合否を判定します。ただし、「英語」は、リスニングの得点を利用しません。 ①「国語」、「英語」のどちらか高得点 1 科目。 ②①に該当する科目以外の最高得点 1 科目。	
	B 日程		
	C 日程		
特別選抜入試【社会人・帰国生】		小論文 (60 分)、面接、出願書類	
AO入試		面談、出願書類	
外国人留学生選抜入試		日本語適性検査、面接、出願書類	

※指定校推薦入試については指定校に直接通知する。

※推薦入試においては調査書を重視し、総合的に判定する。

※センター試験利用入試では個別学力検査等は実施しない。

【松山東雲短期大学】

選考方法			保育科・現代ビジネス学科・生活科学科
推薦入試	特別推薦	指定校制	出願書類、面接
		スポーツ推薦	
		生徒会活動推薦	
専願推薦		出願書類、面接、小論文 (50 分)	
公募推薦			
一般入試	A 日程	出願書類、国語 (古文・漢文を除く) 学力検査 (60 分)	
	B 日程		
大学入試センター試験 利用入試	A 日程	センター試験受験科目のうち上位 1 科目 (ただし、秘書科においては国語と英語のどちらか上位 1 科目)	
	B 日程		
	C 日程		
AO入試		出願書類、面談 (現代ビジネス学科除く)	
特別選抜【社会人・帰国生】		出願書類、面接	
外国人留学生選抜		出願書類、面接	

※指定校推薦入試については指定校に直接通知する。

⑧2014（平成26）年度入試結果

志願者数は大学・短大共に増加したものの入学者には繋がらなかった。他大学と併願している層を取り込むためにも教育改革が必要なのではないかと。

⑨2014年度入学者数

松山東雲女子大学

【心理子ども学科 子ども専攻 : 51名】定員50名（充足率：102%）
 【心理子ども学科 心理福祉専攻 : 45名】定員60名（充足率：75%）
女子大学定員110名（充足率：87.2%）

松山東雲短期大学

【保育科 : 101名】定員100名（充足率：101%）
 【現代ビジネス学科 : 75名】定員70名（充足率：107%）
 【食物栄養専攻 : 87名】定員80名（充足率：109%）
 【介護福祉専攻 : 17名】定員40名（充足率：43%）
短期大学定員290名（充足率：96.5%）

[8] 広報

①松山東雲短期大学 開学50周年記念事業（日程および内容）

日 程	内 容
2013年 11月24日（日）	開学50周年記念プレコンサート「メサイヤ演奏会」開催 テレマン室内オーケストラ・テレマン室内合唱団 指揮者：延原武春氏 会場：チャペル 来場者：約600名
	
【2014年度予定】	
4月2日（水）	入学式招待：食物科第一期卒業生
4月～	生活科学科食物栄養専攻 生協弁当共同企画
5月2日（火）	愛媛新聞 全面広告
5月13日（火）	記念礼拝・理事長講演
5月27日（火）	開学50周年パンフレット、横断幕、クリアファイル 完成 DVD完成（ホームページ公開など）
5月29日（木）	開学記念講演会、入試・キャリア（就職）説明会：東京第一ホテル 講師：佐藤弘毅日本私立短期大学会長、目白短期大学部学長
9月5日（金）・6日（土）	保育実践研究会 全国規模参加人数200～300名予定

9月24日(水)～ 11月9日(日)	開学50周年パネル展
9月27日(土)	生活科学科食物栄養専攻 特別講演会
10月4日(土)	開学50周年記念式典および祝賀会(250人程度予定) 式典：チャペル 祝賀会：国際ホテル松山
10月11日(土)	パイプオルガン・レクチャーコンサート 奏者：松居直美氏(松山教会共催)
2015年3月	短期大学開学50周年記念研究論集発行

・開学50周年ロゴマーク



デザインは50周年の「50」と、その形が構成する「教会」のイメージを基にしています。「50」の「0」の中には十字架を配し、同時にチャペルの窓をイメージしています。分割された4つの面は、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの四福音書をあらわしています(制作：保育科 山本 斉准教授)。また、信仰・希望・愛を象徴するクローバーは、一つ一つが10年の歩みを示しており、緑色の大きなクローバーは現在と未来を象徴しています。

②松山東雲中学・高等学校創立130周年記念事業準備状況

年 度 等	内 容
2013年度(127周年)	創立130周年事業検討委員会設置
2014年度(128周年)	創立130周年記念行事について検討 (記念式典・クローバーデーの日程および内容、創立記念体育祭の日程、創立記念クリスマス・コンサートの日程等) 創立130周年記念行事役割分担について検討

(3) 高等学校・中学校・附属幼稚園

[1] 高等学校・中学校

① 学校行事

- 4月 入学式(4/9)、生徒会歓迎会(4/11)、参観日(4/23)
- 5月 家庭訪問(5/8～6/7)、救急救命講習会(5/15)、中間考査(5/15～ 中5/17・高5/18)
高2修学旅行(5/15～5/18)、自転車交通安全講座(5/21 中)、全校遠足(5/24)
参観日(5/29 中)、愛媛県高等学校総合体育大会(5/31～6/3)
- 6月 生徒総会(6/4)、花の日訪問(6/10 中)、自転車交通安全講座(6/11 高)、
松山市中学校総合体育大会(～6/13)、
ジレット先生墓参(6/15)、四国高等学校総合体育大会(6/15～6/17)
第1回オープンスクール(6/16)、参観日(6/19)、期末考査(6/25～6/29)

- 7月 テーブルマナー (7/3 高3)、終業礼拝 (7/19)、愛媛県中学校総合体育大会 (7/20)
第2回オープンスクール (7/27)
- 8月 全国高等学校総合体育大会 (8/1~8/5)、四国中学校総合体育大会 (8/3~8/4)、
第3回オープンスクール (8/23)、始業礼拝 (8/26)
- 9月 体育祭 (9/5)、創立記念礼拝 (9/13)、クローバーデイ (文化祭) (9/15)
- 10月 マドンナ・レシテーションコンテスト (英語暗誦大会) (10/12)、愛媛県私学振興
大会 (10/12)、中間考査 (10/15~10/18 高)、松山市中学校新人大会 (10/16~10/18)
中間考査 (10/21~10/23 中)、中学校教員対象入試説明会 (10/23)、塾関係者説明
会 (10/30)
- 11月 愛媛県中学校新人大会 (11/9~11/11)、入試説明会 (11/9)、大学見学 (11/19 高2)
クリスマスツリー点灯式 (11/19)、期末考査 (11/26~11/30)
- 12月 クリスマスコンサート (12/12)、テーブルマナー (12/16 中)、クリスマスページェ
ント (12/20)、終業礼拝 (12/20)
- 1月 始業礼拝 (1/8)、高校推薦入試 (1/16)、中学後期日程入試 (1/25)、学年末考査 (1/27
~1/31 高3)
- 2月 一般入試 (2/5~2/6)、中学入学者説明会 (2/8)、中学スプリングフェスティバル (2/15)
テーブルマナー (2/19~2/20)、学年末考査 (2/21~26)
- 3月 高校卒業式 (3/1)、中3修学旅行 (3/3~3/8)、中学修了式 (3/17)、終業礼拝 (3/20)
入学者説明会 (3/21)

②学習指導

学習指導として、一人ひとりの能力を引き出すきめ細かな学習指導を過年度より継続して行っている。中学校では、中学3年間の内容を確実に定着させる指導を徹底している。高等学校では、特進コースと進学コースがあり、特進コースでは、質の高い授業で国公立大学・難関私立大学を目指している。進学コースでは推薦入試や松山東雲女子大学・短期大学の内部進学などを目指している。

また、本校独自の学習プログラムとして、全国の学習塾や予備校で利用されている「個別学習システム」eトレの導入、学期に1回程度国数英のテストを実施するラーニングテストの導入、下校時刻後の自習室の利用 (中学生：午後8時まで、高校生：午後9時まで)、松山東雲女子大学および松山東雲短期大学との高大連携による秘書検定取得プログラムや出張講義 (高3進学コース) を行い、学習効果を高めている。

③進路指導

進路指導として生徒一人ひとりとしっかり向き合い、生徒の希望する進路や将来の夢の実現のため指導を行っている。日頃の受験対策指導に加え、長期休業期間においては、受験対策特訓やセンター試験対策などを行っている。

2013年度は、愛媛大学、青山学院大学、国際基督教大学、明治学院大学、神戸女学院大学などの国立大学、有名私立大学等に進学した。

④部活動の実績

本校ではバレーボール部、サッカー部、アーチェリー部、ゴルフ部、新体操部、フィギュアスケート部、美術部、ハンドベル部、演劇部、吹奏楽部など活発に活動している。

2013年度においては以下のとおり全国大会に出場した。次年度以降の活躍が期待される。

・バレーボール部

第 66 回全日本バレーボール高等学校選手権大会（2回戦敗退）

期日：2014/1/5～1/12

会場：東京都 東京体育館



・サッカー部

第 22 回全日本高等学校女子サッカー選手権大会（初戦敗退）

期日：2014/1/10～1/16

会場：静岡県竜洋スポーツ公園他



・アーチェリー部

第 32 回全国高等学校アーチェリー選抜大会

期日：2014/3/26～3/28 会場：静岡県 つま恋多目的広場特設会場

・スケート部

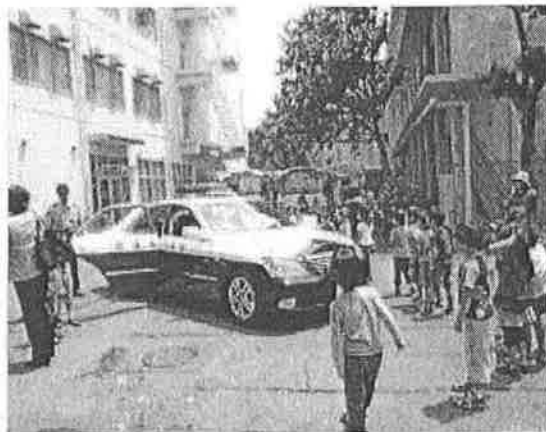
第 63 回全国高等学校スケート競技選手権大会

期日：2014/1/20～1/24 会場：青森県 三沢アイスアリーナ

[2] 附属幼稚園

① 松山市交通安全モデル幼稚園

2013年6月3日、松山市交通安全モデル幼稚園指定式が本園にて行われた。式には松山市交通安全協会、松山東警察署、松山市交通指導員（桑原地区）の方々をお迎えし、年長組の子どもたち、保護者20名、保育者4名が参加した。その後、交通安全映画を見たり、パトカー、白バイの運転疑似体験をしたりした。交通環境（車両の増加・道路網の整備）のめざましい変化に対応するため、園児や保育者、保護者に「交通安全はお茶の間から」といわれる交通安全の原点に立ち返り、園児の交通事故を防ぐためにどのようにすればいいのか、松山市の交通安全施策にかかわり考え合っていくことを確認しあった。



9月20日、秋の交通安全パレード、12月21日の年末の交通安全パレードに年長組の子どもたち、保護者や保育者が参加し、大街道から銀天街まで、歩行者にチラシを手渡ししながら交通安全の呼びかけをした。

3月17日、松山市の新入学児童を代表して2名の子どもたちと保育者2名が松山市役所を訪問し、市長より黄色いランドセルカバーを贈呈された。ランドセルカバーは、市内の新1年生全員に配布された。3月27日にも、新入学児童代表4名が交通安全用品贈呈式に参加し、県警本部前で横断歩道を渡る歩き方の指導を受けた。

4月3日には春の交通安全パレードに、卒園した子どもたち、新年長の子どもたち、保護者、保育者、総勢約40名が参加した。子どもたちは今までの経験が活かされ、自分から手渡し相手を見つけて、声をかけたりチラシを配布したりする動きが見られた。

松山市から依頼され一年間取り組んだ活動から、子どもたちの交通安全への関心が強められ、自分たちで横断歩道を渡るなど交通のルールを守ろうとしたり、地域の交通指導員の方々からも子どもたちに声をかけてくださったりして親しくなった。毎朝の道路横での見守りに感謝の気持ちも伝えられた。園内でも保護者と共に交通安全についての話し合いをする機会が多くなり保育者の安全に対する意識も高まった。

② 夕涼み会

8月22日17時30分から19時30分まで、第2回目の夕涼み会を行った。夏の夕方、カレー、そうめん、唐揚げなどを子どもたちやご家族の人たちと食べたり、ゲームをしたりして楽しんだ。かき氷は好評であった。プログラム最後の花火もきれいな光に歓声があがった。参加者(約500名)の親交を深める機会となった。

③実習生を迎えて

5月8日から9月20日まで、一人につき3日間、保育科一年生の観察実習

5月13日から24日、保育科二年生の第一次実習、10月4日から19日まで第二次実習

11月5日から12月6日まで子ども専攻二年生の実習

中学校2校の職場体験を受け入れた。また、小学校では町探検で子どもたちの訪問があった。以上のような小学・中学校、大学生の来園やこれからの子どもたちにかかわっていく仕事を目指す実習生の受け入れは、本園の保育者に与えられた重要な役割であり、これからもともに学び合っていきたい。

④卒園した子どもたちのクラス会

7月22日、卒園した小学校1年生53名、2・3年生81名、1月7日には4・5・6年生49名を迎えてクラス会を行った。お祈りからはじまり、幼稚園で歌った讚美歌や歌をみんなで声を合わせて歌ったり、おやつを食べたりしながら過ごした子どもたち。久しぶりに会った友だちや保育者と会話が弾んでいた。

⑤しののめ広場

5月15日開始、2月26日終了。毎週水曜日10時30分から11時30分まで、しののめ広場を開いた。未就園児の親子連れで参加し、遊んでいる子どもたちの姿に触れたり子どもたちの歌を聞いたり一緒に歌ったりしながら園内で過ごしていただいた。子どもたちの生き生きしている様子に驚かれる方が多く、参加した子どもさんも好きな遊びをみつけて遊びだすと保護者の方の表情も和らいでいった。ピアホールでの昼食は、よき交わりの場にもなっているようだ。帰りには「たんぼぼ」で遊ぶ予定であることをよく聞く。しののめ広場は幼稚園を知っていただく良い機会となっている。「たんぼぼ」と連携し子育て支援に取り組んでいきたい。

⑥クローバーセール

11月9日、保護者会(母の会)主催のクローバーセールが実施された。手作り品、余剰品、リサイクル品などを持ち寄り販売するクローバーセール。園のお役に立ちたいとの思いからはじまったクローバーセール。園児の家庭一軒、一軒から持ち寄られた品物を通して、在園児と保護者、卒園した子どもと家族、地域の人たちをつないでいく。地域の人々がこの日を待って、開始の1時間前にも並んでおられ、帰りには買った品物を見せてくださった。大学祭と同日開催であることから子どもたちは、学生たちから招待され歌を歌って参加した。また、家族の人たちと買い物をしたり仲間で食事をしたりして楽しんでいる様子も見られた。役員の方々をはじめ、私たちの知らないところでの働きに幼稚園が支えられていることを感謝する。

(4) 耐震化事業等の概要

[1] 大街道キャンパス

松山東雲中学校・高等学校

①校舎耐震診断・耐震補強実施設計	2012年度～2013年度
②音楽館の解体工事	2013年度
③寮（めぐみハウス）の解体工事	2013年度
④ピアス館耐震改修および改修工事	2014年度（8月～2015年3月）
⑤体育館耐震改修工事予定	2015年度（8月～2016年3月）

[2] 桑原キャンパス

松山東雲女子大学・松山東雲短期大学

①大学・短期大学施設検討委員会設置	2013年度
・キャンパスデザイン	2014年度
・耐震改修工事内容・実施時期の検討 A館・C館・E館、愛真館・体育館	2014年度（7月中旬、第二次答申）

松山東雲短期大学附属幼稚園

①幼稚園施設検討委員会設置	2013年度
・幼稚園新園舎の検討	2014年度

(5) 自己点検評価

[1] 松山東雲女子大学

○認証評価機関〔公益財団法人 日本高等教育評価機構〕

・認証評価結果

2010（平成22）年3月24日付「大学評価基準を満たしている」と認定

・2014年度の学内作業

【条件】

大学の教育研究目的を達成するために必要な財政基盤を早急に改善し、平成26（2014）年7月末に認証評価時以降の財務状況に関する報告書（根拠資料を含む）を提出すること。

【条件への対応】

改善報告書の作成・提出：2014（平成26）年7月23日提出予定

[2] 松山東雲短期大学

○認証評価機関〔財団法人 短期大学基準協会〕

・機関別評価結果

2010（平成22）年3月18日付「適格」と認定

・2014年度の学内作業

2013年度・2014年度の整理

(6) その他

○初年度納付金について

	入学金	授業料	施設設備費	実習等費	教育充実費	合計
女子大学	250,000	650,000	250,000	10,000	0	1,160,000
短期大学						
保育・秘書	230,000	550,000	250,000	32,000	0	1,062,000
生活科学	230,000	550,000	250,000	37,000	0	1,067,000
高等学校	30,000	312,000	40,000	0	0	382,000
中学校	30,000	312,000	80,000	0	0	422,000
附属幼稚園	25,000	204,000	24,000	0	2,000	277,000

3. 財務の概要

(1) 2013（平成 25）年度決算概要

①資金収支計算書

本年度決算と予算差異の主なもの及び要因は、収入では自己都合退職者の追加による雑収入（退職資金収入等）の増加、退職者からの貸付金の繰り上げ返済によるその他の収入（貸付金回収収入）等の増加である。支出では、自己都合退職者の追加による人件費（退職金支出等）の増加、中高ピアス館の耐震設計図作成の遅れに伴う教育研究経費支出（報酬委託手数料支出）の減少である。

また、次年度繰越支払資金は、前年度と比べ約 7,239 万円減少したが施設拡充引当資産に 3 億円繰り入れたことを考慮すると実質的に次年度繰越支払資金は 2 億 2,761 万円増加した。

②消費収支計算書

帰属収入は 16 億 3,978 万円、消費支出は 14 億 5,117 万円、帰属収支差額は 1 億 8,861 万円、消費収支差額は 1 億 3,273 万円の収入超過となった。今後、施設計画の実施に伴い収支状況は厳しくなることが想定されますが、教育を更に充実させ、学生・生徒の真の満足度を高め学生・生徒を安定確保し、教育研究目的を達成するために必要な財務基盤を更に改善し、強化するよう取り組む予定である。

③貸借対照表

資産の部では、中高の建物の除却及び減価償却により、建物が約 1 億 548 万円減少した。また、次年度に予定されている施設計画の実施に向けて、施設拡充引当資産に繰入を行ったことにより、その他の固定資産が約 2 億 8,085 万円増加した。

負債の部では、長期借入金を短期借入金に振替えたことにより長期借入金が約 5132 万円減少した。

基本金の部では、施設関係の借入金返済等に伴い基本金が約 5,587 万円増加した。

消費収支差額の部では、黒字決算に伴い翌年度繰越消費支出超過額が前年度より約 1 億 3,273 万円減少した。今後も、健全な財務状況を維持するために中長期資金計画の検討を深めていく。

④資金収支計算書(平成25(2013)年4月1日～平成26(2014)年3月31日)

収入の部

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	1,071,753,000	1,066,939,250	4,813,750
手数料収入	16,295,000	17,022,240	△ 727,240
寄付金収入	7,605,000	8,378,347	△ 773,347
補助金収入	368,336,000	364,096,690	4,239,310
国庫補助金収入	206,835,000	198,004,000	8,831,000
地方公共団体補助金収入	161,501,000	166,092,690	△ 4,591,690
資産運用収入	92,552,000	92,068,264	483,736
資産売却収入	27,946,000	27,946,740	△ 740
事業収入	20,867,000	20,291,877	575,123
雑収入	43,487,000	64,993,358	△ 21,506,358
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	231,044,000	231,958,500	△ 914,500
その他の収入	254,525,000	272,570,339	△ 18,045,339
資金収入調整勘定	△ 252,505,000	△ 312,207,427	59,702,427
前年度繰越支払資金	671,318,000	671,318,191	△ 191
収入の部合計	2,553,223,000	2,525,376,369	27,846,631

支出の部

科目	予算	決算	差異
人件費支出	850,342,000	867,881,600	△ 17,539,600
教育研究経費支出	354,036,000	336,494,704	17,541,296
管理経費支出	123,612,000	116,367,256	7,244,744
借入金等利息支出	10,579,000	10,577,780	1,220
借入金等返済支出	51,320,000	51,320,000	0
施設関係支出	14,387,000	15,015,000	△ 628,000
設備関係支出	23,208,000	25,324,835	△ 2,116,835
資産運用支出	502,175,000	502,174,869	131
その他の支出	10,449,000	11,581,537	△ 1,132,537
〔予備費〕	0	0	0
資金支出調整勘定	△ 10,219,000	△ 10,285,860	66,860
次年度繰越支払資金	623,334,000	598,924,648	24,409,352
支出の部合計	2,553,223,000	2,525,376,369	27,846,631

⑤消費収支計算書(平成25(2013)年4月1日～平成26(2014)年3月31日)

消費収入の部

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	1,071,753,000	1,066,939,250	4,813,750
手数料	16,295,000	17,022,240	△ 727,240
寄付金	7,605,000	9,960,582	△ 2,355,582
補助金	368,336,000	364,096,690	4,239,310
国庫補助金	206,835,000	198,004,000	8,831,000
地方公共団体補助金	161,501,000	166,092,690	△ 4,591,690
資産運用収入	92,552,000	92,068,264	483,736
資産売却差額	20,233,000	20,233,898	△ 898
事業収入	20,867,000	20,291,877	575,123
雑収入	42,805,000	49,169,655	△ 6,364,655
帰属収入合計	1,640,446,000	1,639,782,456	663,544
基本金組入額合計	△ 88,915,000	△ 55,875,926	△ 33,039,074
消費収入の部合計	1,551,531,000	1,583,906,530	△ 32,375,530

消費支出の部

科目	予算	決算	差異
人件費	806,853,000	841,167,447	△ 34,314,447
教育研究経費	475,217,000	455,330,185	19,886,815
管理経費	125,697,000	117,567,166	8,129,834
借入金等利息	10,579,000	10,577,780	1,220
資産処分差額	26,101,000	26,528,750	△ 427,750
[予備費]	0		0
消費支出の部合計	1,444,447,000	1,451,171,328	△ 6,724,328
当年度消費収入超過額	107,084,000	132,735,202	
当年度消費支出超過額			
前年度繰越消費支出超過額	3,735,405,512	3,735,405,512	
翌年度繰越消費支出超過額	3,628,321,512	3,602,670,310	
帰属収支差額	195,999,000	188,611,128	7,387,872

⑥貸借対照表(平成26(2014)年3月31日)

資産の部

科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	6,300,088,105	6,123,870,657	176,217,448
有形固定資産	4,617,941,014	4,722,583,085	△ 104,642,071
土地	655,684,925	655,684,925	0
建物	3,234,918,234	3,340,401,046	△ 105,482,812
その他の有形固定資産	727,337,855	726,497,114	840,741
その他の固定資産	1,682,147,091	1,401,287,572	280,859,519
流動資産	677,556,575	723,882,210	△ 46,325,635
現金預金	598,924,648	671,318,191	△ 72,393,543
その他の流動資産	78,631,927	52,564,019	26,067,908
資産の部合計	6,977,644,680	6,847,752,867	129,891,813

負債の部

科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	1,178,008,277	1,240,218,727	△ 62,210,450
長期借入金	387,040,000	438,360,000	△ 51,320,000
その他の固定負債	790,968,277	801,858,727	△ 10,890,450
流動負債	340,963,505	337,472,370	3,491,135
短期借入金	51,320,000	51,320,000	0
その他の流動負債	289,643,505	286,152,370	3,491,135
負債の部合計	1,518,971,782	1,577,691,097	△ 58,719,315

基本金の部

科目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	8,574,002,323	8,518,126,397	55,875,926
第3号基本金	287,340,885	287,340,885	0
第4号基本金	200,000,000	200,000,000	0
基本金の部合計	9,061,343,208	9,005,467,282	55,875,926

消費収支差額の部

科目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額	3,602,670,310	3,735,405,512	△ 132,735,202
消費収支差額の部合計	△ 3,602,670,310	△ 3,735,405,512	132,735,202

負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計

科目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額	6,977,644,680	6,847,752,867	129,891,813

⑦ 財 産 目 録

平成26(2014)年3月31日現在

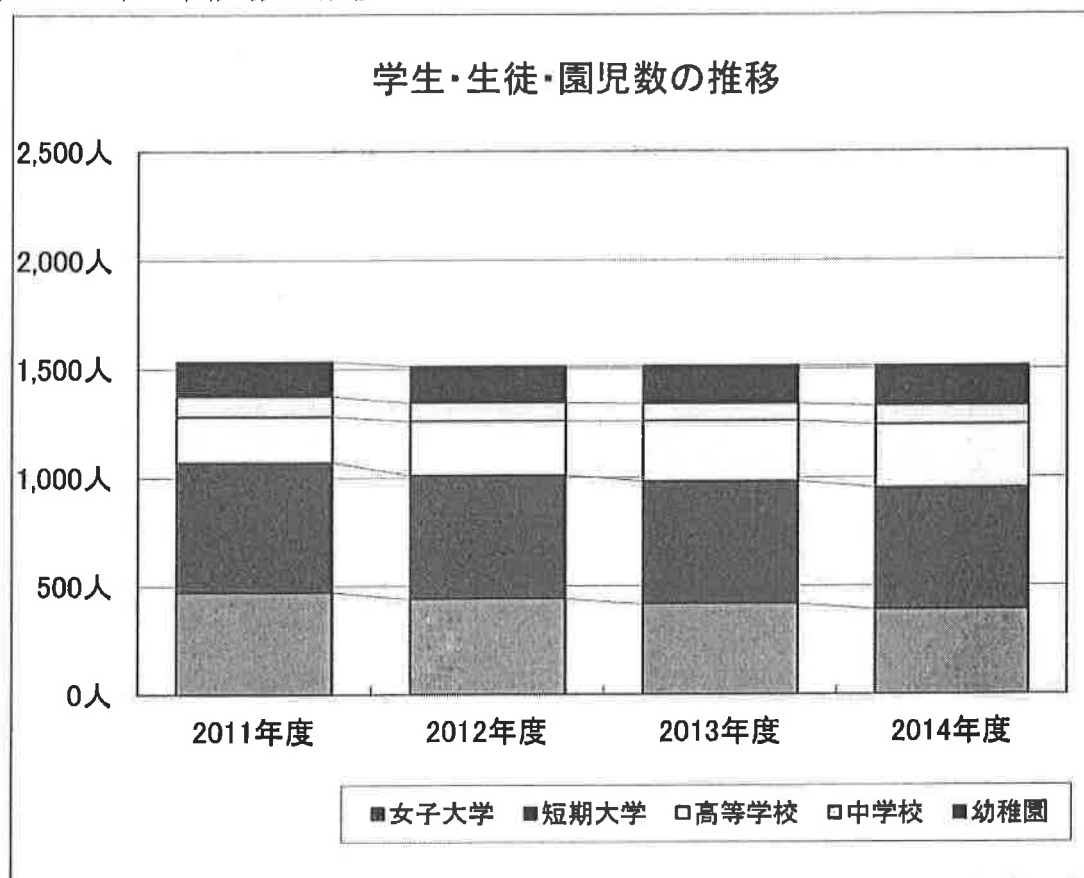
I 資産総額		7,009,100,747 円
内 基本財産		4,617,941,014 円
運用財産		2,359,703,666 円
収益事業用財産		31,456,067 円
II 負債総額		1,518,971,782 円
III 正味財産		5,490,128,965 円

科 目	数 量	金 額
一 資産額		
(一) 基本財産		
1 土地		
桑原校地	33,058.00 m ²	436,353,576 円
大街道校地	27,776.77 m ²	219,331,349 円
計	60,834.77 m ²	655,684,925 円
2 建物	39,113.93 m ²	3,234,918,234 円
3 構築物	43 件	67,074,563 円
4 教具・校具・備品	27,965 点	66,432,813 円
5 図書	214,223 冊	585,563,099 円
6 車輛	4 台	8,267,380 円
基本財産 合計		4,617,941,014 円
(二) 運用財産		
1 預金、現金	33 件	598,924,648 円
2 積立金		
第3号基本金引当資産	3 件	287,340,885 円
施設拡充引当資産	26 件	1,229,131,492 円
計	29 件	1,516,472,377 円
3 電話加入権	23 件	1,690,904 円
4 施設利用権	2 件	18,670,980 円
5 収益事業元入金	1 件	63,470,000 円
6 差入保証金	3 件	3,197,000 円
7 長期貸付金	3 件	78,645,830 円
8 未収入金	18 件	78,251,927 円
9 仮払金	2 件	380,000 円
運用財産 合計		2,359,703,666 円
合計((一)+(二))		6,977,644,680 円
(三) 収益事業用財産		
1 建物		14,381,307 円
2 構築物		75,660 円
3 預け金		16,999,100 円
収益事業用財産 合計		31,456,067 円
合計((一)+(二)+(三))		7,009,100,747 円

科 目	数 量	金 額
二 負債額		
1 固定負債		
(1) 長期借入金		
日本私立学校振興・共済事業団	3 件	387,040,000 円
(2) 退職給与引当金	95 件	790,968,277 円
2 流動負債		
(1) 短期借入金		
日本私立学校振興・共済事業団	1 件	51,320,000 円
(2) 前受金	26 件	231,958,500 円
(3) 預り金	13 件	46,988,595 円
(4) 未払金	5 件	10,285,860 円
(5) 仮受金	2 件	410,550 円
合 計		1,518,971,782 円
正味財産(資産総額-負債総額)		5,490,128,965 円

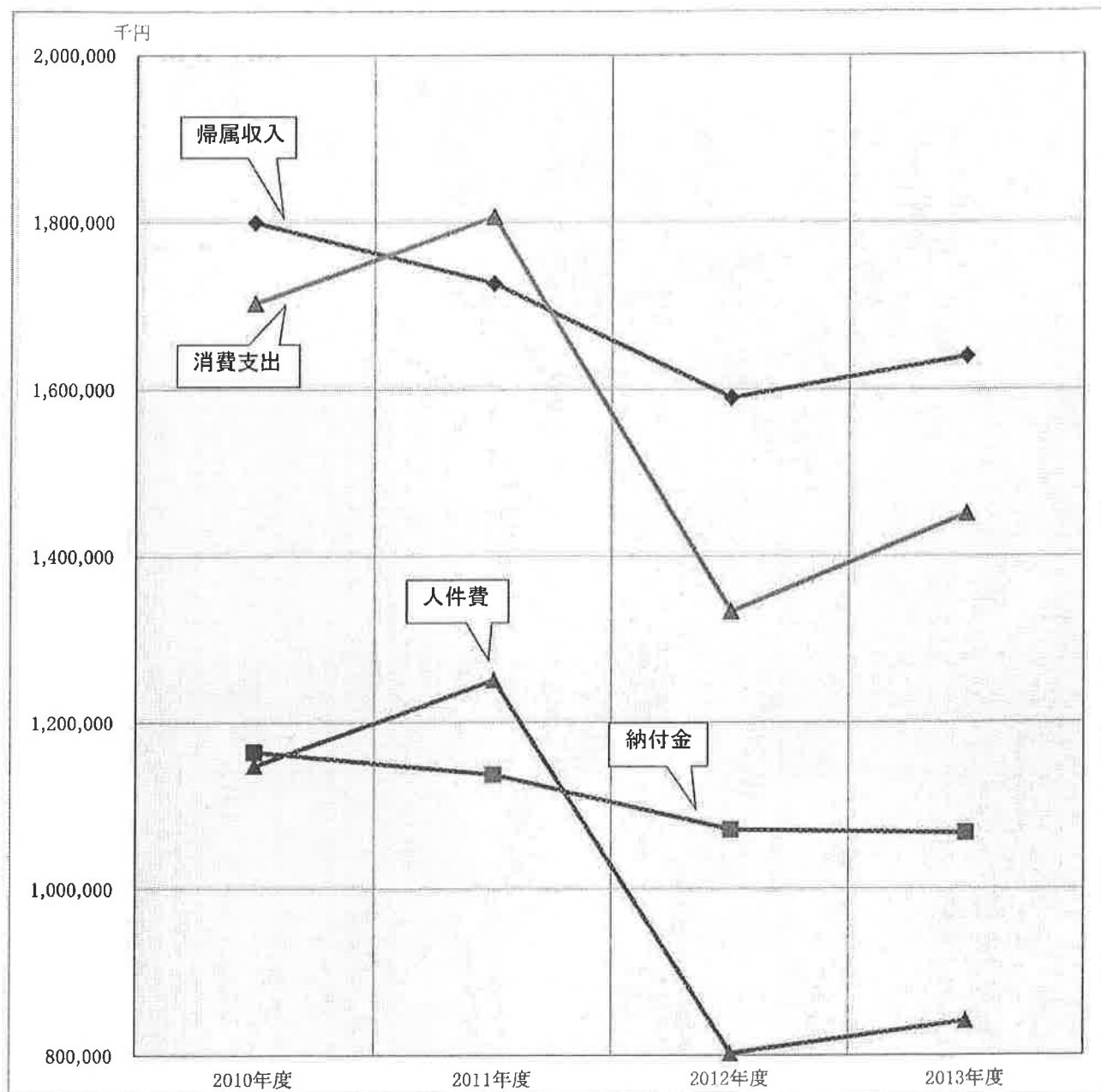
(2) 経年比較資料

① 学生・生徒・園児数の推移



	2011年度 平成23年度	2012年度 平成24年度	2013年度 平成25年度	2014年度 平成26年度
女子大学	472人	441人	417人	390人
趨勢率 (%)	100.0	93.4	88.3	82.6
短期大学	600人	570人	566人	563人
趨勢率 (%)	100.0	95.0	94.3	93.8
高等学校	211人	251人	279人	290人
趨勢率 (%)	100.0	119.0	132.2	137.4
中学校	92人	83人	79人	88人
趨勢率 (%)	100.0	90.2	85.9	95.7
幼稚園	160人	168人	174人	182人
趨勢率 (%)	100.0	105.0	108.8	113.8
合計	1,535人	1,513人	1,515人	1,513人
趨勢率 (%)	100.0	98.6	98.7	98.6

② 学園財務推移資料



科目	2010年度決算 平成22年度決算		2011年度決算 平成23年度決算		2012年度決算 平成24年度決算		2013年度決算 平成25年度決算	
	金額	趨勢率	金額	趨勢率	金額	趨勢率	金額	趨勢率
A. 帰属収入合計	1,800,077	100.00%	1,727,034	95.94%	1,590,383	88.35%	1,639,782	91.10%
内、学生生徒等納付金	1,164,421	100.00%	1,137,837	97.72%	1,071,291	92.00%	1,066,939	91.63%
B. 消費支出合計	1,703,616	100.00%	1,807,025	106.07%	1,334,037	78.31%	1,451,171	85.18%
内、人件費	1,147,859	100.00%	1,251,505	109.03%	802,510	69.91%	841,167	73.28%
帰属収支差額(A-B)	96,461		△ 79,991		256,346		188,611	
生徒数	1,517		1,535		1,513		1,515	



監事監査報告書

平成26年5月28日

学校法人 松山東雲学園

理事会 御中

評議員会 御中

監事 永井 頼江 
監事 鳥谷 紀興 

私ども監事は、私立学校法第37条第3項及び学校法人松山東雲学園寄附行為第8条第2項の規定に基づき、平成25年度（平成25年4月1日から平成26年3月31日まで）の学校法人の業務、財産の状況及び計算書類等、すなわち事業報告書、資金収支計算書（人件費支出内訳表を含む）、消費収支計算書、貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む）及び財産目録について監査を行いました。

その結果を以下の通り報告いたします。

1. 監査の方法の概要

平成25年度に開催された理事会（19回開催）、評議員会（4回開催）に出席し、理事長から業務の執行の報告を聴取したほか、重要な決裁書類等を閲覧し、学校法人の運営全般及び財産の状況を調査しました。

また、えひめ有限責任監査法人の指定有限責任社員である丸木公介公認会計士からは平成26年5月20日に監査の報告及び説明を受け、計算書類等につき検討を加えました。

2. 監査の結果

- (1) 会計帳簿は、記載すべき事項を正しく記載し、事業報告書、資金収支計算書（人件費支出内訳表を含む）、消費収支計算書、貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む）及び財産目録の記載と合致し、適法かつ正確に法人の収支状況及び財政状況を示していると認めます。
- (2) 学校法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する事実は認められません。

以上